

2016年度 事業報告

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2015年（平成27年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定を受ける
2016年（平成28年）	音楽学部音楽科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15名 理事の現員数10名

理事長	中村 孝義	理事	岡野 幸義
副理事長	本田 耕一	理事	北野 徹
常任理事	十川 輝明	理事	田中 勉
常任理事	中上 善生	理事	永井 譲
常任理事	武藤 好男	理事	福井 慎吾 (2016年5月29日付就任)
		理事	本山 秀毅 (2016年5月28日付退任)

監 事

監事定数 2名 監事の現員数2名

小林 慶成
花岡 浩二 (2016年5月29日付就任)
永井 俊一 (2016年5月28日付退任)

評議員

評議員定数 21～31名 評議員の現員数22名

大学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	武藤 好男
大阪音楽大学短期大学部学長	武藤 好男
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2016年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員	在籍数
音楽学科 (2012年度以降)	210名	30名	900名	729名
作曲学科 声楽学科 器楽学科	(募集停止)			12名
計	210名	30名	900名	741名

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	1名	0名
声楽専攻	5名	5名
器楽専攻	14名	10名
計	20名	15名

●大阪音楽大学 大学院

研究科	専攻	入学定員	収容定員	在籍数
音楽研究科	作曲専攻	2名	4名	2名
	声楽専攻	4名	8名	14名
	器楽専攻	7名	14名	18名
計		13名	26名	34名

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	収容定員	在籍数
音 楽 科	150名	300名	235名
計	150名	300名	235名

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専攻	入学定員	在籍数
音楽専攻	15名	12名

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学年	定員	在園児数
3歳児3学級	105名	105名
4歳児3学級	105名	105名
5歳児3学級	105名	96名
計	315名	306名

II 事業の概要

1. 音楽学部音楽学科に、映画・CM・ゲーム・ポピュラー音楽などの商業音楽に特化した作曲を学ぶミュージッククリエイション専攻と、音楽を生かしたイベント企画・運営を学ぶミュージックコミュニケーション専攻を開設した。それぞれ23名、13名の入学者を受け入れた。
2. 学校法人常翔学園と連携協力に関する協定を締結した。両法人が相互に連携協力することで、教育研究活動のさらなる充実と発展を目指すとともに、常翔学園が新たに開設した梅田キャンパス内の「常翔ホール」を活用し、新しい芸術文化を梅田から発信する。
3. 11月7日に新校舎「100周年記念館」建設工事の竣工式を同館内で執り行った。浅利敬一郎豊中市長、設計者、施工者など多数の方にご出席いただき、庄内神社宮司による神事を斎行した。また、3月26日には100周年記念館完成披露式をパイプオルガン演習室で執り行い、浅利敬一郎豊中市長、谷岡一郎日本私立大学協会常務理事、角和夫阪急電鉄株式会社代表取締役会長よりご祝辞をいただいた。
4. 12月7日にザ・シンフォニーホールでアルベルト・ゼツダ氏指揮のもと第59回大阪音楽大学定期演奏会を開催した。F.メンデルスゾーン「交響曲第4番イ長調」とG.ロッシーニ「スターバト・マーテル」の2作品が披露され盛況の内に終了した。
5. 3月4日フェスティバルホールにおいて、フィリップ・スパーク氏の指揮のもと第48回吹奏楽演奏会を開催した。「オリエント急行」、「宇宙の音楽」、「カラー・シンフォニー」など計7曲が披露され会場は多くの人で埋め尽くされた。
6. 2014年9月16日に開始した「創立100周年記念新校舎建設募金」活動を2016年12月31日をもって終了した。当初の目標額1億円を超える134,049,510円の寄付金が寄せられた。
7. ミュージックコミュニケーション専攻の専用教室としてD号館（視聴覚資料閲覧室）の改修工事を行った。実際のイベントスペースとして活用できるようメディア設備も充実させた設計とした。
8. 学長選挙規程の改定を行い、施行日を2017年4月1日とした。
9. 菊原光治氏、シプリアン・カツァリス氏が客員教授に就任した。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・大学専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

作曲研究室2、声楽研究室14、ピアノ研究室13、管弦打研究室5の計34名が在籍（内、後期休学1、前期休学・後期退学1）。各研究室による修士作品・修士演奏及び論文審査、口述試験の結果、作曲1、声楽10、ピアノ6、管弦打2の19名が修了した。大学院生必修の「芸術文化の諸相」の授業を前期は堀江政生氏（朝日放送アナウンサー）に、後期は先花智恵子氏（通訳案内士）が担当し、実践的スキルを養った。修了生支援としての「研究生制度」は更新3名、新規10名が各自のテーマに沿って研究を行った。ティーチングアシスタントとして、2名が大学・短大の授業補助を行った。大学院定期演奏会を11月4日に開催、大学院の研究水準の高さを示す機会となった。2017年度入試は、前・後期合わせて35名の志願者があり、12名が合格した（辞退者1名があり入学者は11名）。

<大学>

音楽学部には741名が在籍し、194名が卒業した（内、前期卒業生7名）。卒業生の中から、最優秀賞4名、優秀賞11名を表彰した。

2016年度から、音楽産業をはじめ社会のあらゆる現場に対応できる高い汎用力の育成を目的とするミュージックコミュニケーション専攻と、映画・CM・ゲーム・ポピュラー音楽など、商業音楽の作曲家の育成を目的とするミュージッククリエイション専攻を開設し、音楽学部は音楽学科13専攻の教育体制になった。

<大学専攻科>

大学専攻科は15名の在籍者全員が修了した。音楽実践演習としてLICはびきの（10月15日）、及び西宮フレンドホール（11月19日）においてオータムコンサートを実施した。また、洲本市教育委員会からの要請を受け、地元中学生との交流事業「∞ Music～feel the music～」（9月18日）に参加・協力した。

<短大・短大専攻科>

音楽科には235名が在籍し、98名（うち4名は前期）が卒業した。卒業生の中から優秀賞9名を表彰した。また専攻科には12名が在籍し11名が修了した。

高校生に専門性を伴う授業を定期的、継続的に提供する「オープンカレッジ」は、昨年に引き続きポピュラー、ダンスパフォーマンスのコースにおいて開講され多くの参加者を得た。

短大のコースの内、旧K号館を本拠にしていた各コースは新校舎への移転を年度内に果たし、新年度に備えた。専攻科は独自のカリキュラムである「コンサートプロデュース」による演奏会をミレニアムホールで開催した。

学長主導の教育改革

●要旨

学校教育法施行規則の改正に伴い、運営会議における検討を経て7月及び9月の教授会で大学、短大の3つのポリシーを改定した。

●成果及び達成度

本学の建学の精神や教育方針に基づき、人材育成のあり方や教育課程の編成、入学者選抜の実施方法等を具体的に表現した。

●今後の展望

今後は学長の主導により3つのポリシーを起点とするカリキュラム変更や入学者選抜の改革が運営会議や教授会で検討され、体系的・組織的な教育活動が活発に展開される。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

豊中市との協働により、豊中市立芸術文化センターのオープニングイベントとしてミュージックコミュニケーション専攻プロデュースによる「少女の森」「Rhythm Space & Cafe」「プレミアムクリスマスコンサート」を何れも12月24日に開催した。その他、学生の自主活動のイベントとして「K号館さよならフェス」をプロデュースし、2月15日に実施した。

●成果及び達成度

1年次生のみによるイベントの企画や実施には未熟な部分も少なくないが、学生たちは実践的な活動を経て音楽をプロデュースする力を着実に身に付けている。

●今後の展望

次年度は豊中市立芸術文化センターに加え、他の自治体や協定を結ぶ大阪工業大学との連携イベントを計画中である。

教員採用試験筆記試験対策講座 (WEB講座)

●要旨

学生及び卒業生の内、教員採用試験受験を目指す者を対象に、教員採用試験筆記試験対策講座を実施した。

当該講座は2014年度より学外業者を指定したWEB講座として実施しており、2016年度も同様に一般教養対策、教職教養対策、論文対策、時事対策を含めた講座として実施した。講座実施期間は年度を跨ぎ1月下旬頃から10月にかけて実施している。WEB講座は、自身の学習に向けた意志の継続が重要で、どれだけ教員採用試験への思いが強いかが問われるが、時間を気にせず、自分のペースとスケジュールでの学習が可能という強みがある。個別対策での契約ではなく、一括契約を結んでおり、受講の学生は自身が受験を希望する自治体で課される課題を中心に学習が可能となっている。また、2015年度から導入した公務員筆記試験対策についても同様に、WEB講座として公務員（自衛隊、警察、消防）音楽隊を目指す学生などを対象に実施した。

●成果及び達成度

教員採用試験対策WEB講座（ガイダンス1回、教職教養対策全24回、一般教養対策全26回、論文対策全11回、時事対策全4回、総まとめ・教職教養全5回、人物対策講座全2回）を実施した。WEB講座受講者数は継続者を含めて8名（内訳：大学6名、短大2名）であった（新規は大学2名）。

また、公務員試験対策WEB講座<自衛隊・消防・警察対策>（ガイダンス1回（教員採用試験対策と同じ）、警察官・消防官試験対策共通講座全69回、警察官試験対策講座全24回、消防官試験対策講座全20回）を実施した。WEB講座受講者数は1名（内訳：大学・1名）であった。

過年度受講者を含む教員採用試験受験状況は以下のとおり。

○2015年度・2016年度受講生（合計24名）

<教員採用試験合格者> *（ ）内はWEB講座受講年度

・大阪市1名（2015年度） ・大阪府1名（2016年度）

<教員採用試験1次合格者>

・大阪府（豊能地区）1名（2015年度） ・兵庫県1名（2016年度） ・奈良県1名（2016年度）

●今後の展望

WEB講座の効果について検証を行う。

学習への意志の継続が鍵となるため、学生の学習意識を高める効果的な方策について、さらに検討を行うとともに、学生に対する告知方法（周知方法）も検証する。

公務員試験対策については、音楽隊受験者に比して受講者が少なかったため、その原因を探り、受験準備として活用する旨の告知方法を検討する。

日本語ライティング支援室の運営

●要旨

学生のキャリア形成におけるライティング能力の重要性の認識と向上のため、文書（レポート、エントリーシート、履歴書等）及びデザイン関係の個別指導や講座、広報誌の発行等を、啓蒙活動も行いながら実施した。

また産業界ニーズ事業【テーマB】継続事業である産学協働人材育成機構「AICE」運営に参画し、学生のキャリア形成に有用な講座やプロジェクトを産学協働で実施した。

●成果及び達成度

学生のキャリア形成におけるライティング能力等向上のため以下の事業を実施した。

- ・社会人基礎力育成支援のため、名刺作成講座を10回実施した。
- ・社会人基礎力育成支援のため、日本語ライティング支援室にて文書添削指導を行った。相談件数は約350件。
- ・課外PBLとして、日本語ライティング支援室発行の広報誌『WRITING NOTE vol.16』（A3サイズペーパー、10月発行）及び『WRITING NOTE vol.17』（A3サイズペーパー、2017年3月発行）に学生記者8名を参加させた。記事作りを通してコミュニケーション力や文章力などを身につけるよう指導した。

また、産学協働人材育成機構「AICE」関連の講座やプロジェクトについて以下の事業に参画した。

- ・企業プロモーションプロジェクト「企業を取材しよう」に学生8名を参加させた。
- ・大阪府からのミッションである「消費者教育普及プロジェクト」の学生リーダーとして3名の学生を参加させた。
- ・「AICE」参加を契機に連携を開始した《有限会社マーケティングメソッド研究所》《シュンビン株式会社》の協力を得て、シュンビン株式会の見学及び同社の社長・社員取材も含めて3日間の「企業研究講座」を実施し、7名の学生が参加した。

これらのプロジェクト等への参加に際し、事前に主旨説明等の面談や事前学習等のサポートを行うとともに、実施後の発表、振り返りを行い、学生のキャリア形成や経験値の蓄積、気づきを促すことができた。

●今後の展望

学生のキャリア形成におけるライティング能力の向上については、キャリア支援センターとも調整、協働しながらこれからも推進していく。とくに文書添削の指導方法については、キャリア支援センターと調整を図った上で学生支援を進めて行く。

産学協働人材育成機構「AICE」プロジェクト等については、学生のキャリア形成に有用と思われる企画か否かを検証し、有用と判断したものについては積極的に参画していく予定である。また、今後連携可能な企業・自治体・公的機関等があれば、本学のニーズに合わせた課外講座等を推進する。

インターンシップの年2回の実施

●要旨

卒業後の進路を考える上での重要な柱の一つとして、インターンシップを実施した。本学が行うインターンシ

ップは、音楽大学としての「学び」と「専門性」を活かすことのできるコンサートホール・楽器店・音楽教室・音楽マネジメント業、楽団など、音楽業界の企業・団体等の協力を得て行っている。

実施は夏期（8～9月）及び春期（2～3月）であり、学生の希望・適性に応じた受入機関へ面接を経て1週間から10日程度の期間で派遣している。派遣前後には事前・事後学習として、受入機関についての企業研究・マナー研修・実習報告会・受入機関への御礼状作成等の指導を行っている。

●成果及び達成度

次の目的でインターンシップを実施した。

①大学の教育目標にある「高い音楽能力と幅広い人間力を備えた、良識ある音楽人」を、音楽現場での実践を通じて育てる。

②就業体験を積むことで、学生が音楽業界の実情や企業・団体の仕組みを理解し、仕事への興味や関心を高める。

③学生が自身の強み・弱みに気づき、適性を客観的に考えることで、進路イメージを具体的に描く。

各期における参加人数は以下のとおり。

□夏期：34名（延べ人数）（派遣企業：15社）

□春期：26名（同上）（派遣企業：15社）

この他にも、一般企業へのインターンシップとして兵庫県経営者協会との提携で夏期1名、春期2名が参加した。参加した学生にとって、イメージと現実との差異や自身とのマッチング性の確認等貴重な体験となり、将来の進路を考えるきっかけの一つとなった。

●今後の展望

2017年度も引き続き年間2回のインターンシップを実施する。音楽系のインターンシップについては、新たな楽器店など希望される企業と内容等調整の上、可能な限り対象企業に加えていく予定である。また、一般企業へのインターンシップについては、大学が提携を結んでいる「大学コンソーシアム大阪」「兵庫県経営者協会」に加え、就活情報サイト企業の開催（仲介）するインターンシップへの参加の促しも含めて情報提供、サイト登録等を勧めていく。

キャリア支援講座の企画・実施

●要旨

卒業後の進路・就職を考える上で、必要と思われるマナーや面接のスキル、好印象を与えるメイク方法、ピアノグレード資格取得を目指す学生への対策講座や今後必要とされる英会話などの支援講座を「キャリア支援センター講座」として実施した。また、就職や夢をかなえた卒業生と直に話ができる座談会形式の「MIRAIカフェ」を6回実施した。

実施する講座の決定には、学生のニーズについてアンケート調査等を行うなどし、定番講座に加えてより希望の多い講座を開講している。

この講座は、受講者が考えている方向性の検証及び再考の契機とし、講座で得たものを進路・就職などの活動に活かしてもらうことを目的としており、また様々な進路を歩んでいる卒業生たちの話を、お茶を飲みながらくつろいだ雰囲気の中で聞き、自分の将来について考えたり、志望の進路について話をしたり、質問・意見を交換する中で、自分の将来について再考する機会としている。

●成果及び達成度

2016年度は以下の7講座を開講した。講座名と参加人数は以下のとおり。有料講座が多いためか参加者が少ないので、参加学生数の増加が課題である。

- ・英会話講座(10回)：大学5名、短大1名
- ・ヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座(9回)：大学6名、短大9名
- ・TOEICテスト対策セミナー(1回)：大学7名、短大2名、卒業生1名
- ・履歴書&自己分析講座(1回)：大学4名
- ・面接対策講座(3回)：大学6名、短大1名
- ・就活メイク講座(1回)：大学4名
- ・MIRAIカフェ(6回)：大学22名、短大5名、高校生1名

上記以外にも企業就職志望者を対象とした「MIRAIセミナー」、「就活強化セミナー」、「SPI・WEBテスト体験セミナー」、「ランチタイム・就活ミニ講座」などを実施した。2017年度就活について、3月の企業広報開始以降、例年以上に会社説明会参加者からの相談や履歴書・エントリーシート添削、面接練習依頼があり、これら講座やセミナー等の効果が少なからずあった。

●今後の展望

例年に引き続き定番の講座に加え、学生アンケートの結果を検討して新しい講座を開催する。「ヤマハピアノ演奏グレード5級取得準備講座」「TOEIC対策講座」については新規開講が決定している。また、企業就職志望者を対象とした「就活関連セミナー」を就職活動の時系列に沿った内容で開講する。さらに、企業が行う夏期インターンシップについても就活情報サイトと協力して進めて行く予定である。

学生面談(進路・就職：大学3年生、短大1年生中心)の実施

●要旨

毎年度、「卒業後の進路を共に考える」をモットーに、適切な時期を設定して予約制の定期個別面談を実施している。2016年度は、卒業学年の大学4年次生、短大2年次生は5月から7月にかけて、また就活時期を迎える大学3年次生、短大1年次生は11月から1月にかけて行った。学生個別面談はキャリア支援センターの重要な支援の柱の一つで、学生自身の進路への考え方や、ニーズを把握する機会として位置付けており、学生一人ひとりと時間をかけて向き合うことを心掛けている。定期面談後も継続して個別対応を実施し、学生との信頼関係の構築を図り、希望進路に沿った求人等について紹介するなど、卒業まで支援を行っている。

●成果及び達成度

卒業・修了学年(大学4年・短大2年等)については、5月から7月まで、希望者に対し面談を行った。人数は以下のとおり。

- ・大学院2年次生：2名、大学専攻科生：3名、大学4年次生：13名、短大2年次生：22名、短大専攻科生：5名

卒業学年のため、面談において希望業種、職種等が把握できた者には求人紹介を行い、エントリーにつながった。

就活直前となる大学3年次生、短大1年次生については、前年の課題であった面談率(50%以下)を向上させるため予約受付方法を再考した結果、大学は67%、短大は60%の面談率となり一定の成果を得た。面談の実施人数は以下のとおり。

- ・大学3年次生：122名、短大1年次生：64名

学生の卒業後の進路として①演奏家(演奏活動)を目指す②音楽教室野講師③教員(中学・高校)④企業への就職(音楽系企業、一般企業含む)⑤進学の5つの方向性を考えているが、学生の進路希望は様々でそれぞれの希望に向き合っていくことを心掛けている。また、今年度は一般企業就職系の就活ポイントセミナーも複数回実施し、その影響か3月から開始された企業の広報活動開始以降エントリーシート添削や面接練習・相談を希望する学生が例年に増して来室している。

●今後の展望

進路希望を把握するものの一つとして「進路調査カード」の提出を学生に求めているが、面談来室率に直接に関係するため、このカード提出率を上げることを検討する。現状では大学、短大ともに70%弱であり、差しあたって70%を超える提出率を目標としたい。また、面談では希望企業等の紹介も行っている。今年度は、求人紹介の幅を広げ、数を増やすため、各企業に対し郵送による求人依頼を行った。数年ぶりの実施であるが、一部企業から求人依頼を得ることができ、今後も継続して実施していく予定である。

【2】国際交流

2016年度は以下の4名が海外提携校留学助成金制度の適用を受け、海外の大学や音楽院で学んだ。

- ・大学4年ピアノ 王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）
- ・大学3年ピアノ 王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）
- ・大学4年ピアノ フォルクヴァング芸術大学（ドイツ）
- ・大学2年クラリネット ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院（フランス）

本学学生の送り出しに対して海外提携校から留学生の受け入れはなかったが、フォルクヴァング芸術大学より2018年4月に声楽を専攻する学生を本学へ送りたいとの打診があり、学内で調整を進めることとした。

なお、ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院との協定が既に契約期間満了となっているが、パリ市の事務上の問題から更新の手続きができていない。今後も更新ができない場合は提携校のリストから一旦削除することを検討する。

【3】学生生活支援・福利厚生

学生相談室が2013年4月の開設当初より好評であり、2016年度中の来訪者はのべ約780名であった。データの分析は今後になるが、休退学の抑制に貢献していると考えられる。この相談室に加え、2017年度より作曲資料室を改編して新たに「学習支援室」を開設することを決定した。過年度より各教員がオフィスアワーとして実施している学習支援に対する申込みが増加傾向にあることが開設の理由である。また、経済面の支援では本学独自の奨学金制度である「大阪音楽大学奨学事業団奨学金」の2016年度における貸与者は大学19名（大学院3名を含む）、短大3名であった。

大学祭開催・自治会活動に対する支援について

●要旨

自主演奏会が活発になる一方で学生の参加が年々減少している大学祭の開催を支援し、その実行委員会の中心となる自治会の通年的な活動については学生生活委員会及び学生生活担当が指導にあたった。

●成果及び達成度

授業時間外の個別指導等による学習支援が定着しつつある。

●今後の展望

2016年度の大学祭は学生による模擬店の出店がほとんど無く、学内の給食業者に軽食の販売を有償で依頼する等、従来のスタイルを維持することが困難であった。また、音楽事務所を通じて外部団体を招聘することが予算の高額化につながっていることもあり、次年度の大学祭は「ぱうぜ」やミレニアムホールにおける学生の演奏を

主体とする催しに変更するよう自治会に依頼する。

【4】教員の研究活動

本学の助成による研究活動は、通常研究4件、特別研究（学術分野）1件、特別研究（芸術分野）4件であった。『大阪音楽大学研究紀要第55号』（論文2編、研究ノート2編を収録）は、3月末にホームページ上に公開した。

研究委員会は11回開催され、助成申請のあった研究課題に対する審査、『大阪音楽大学研究紀要』の投稿論文等の査読と掲載の可否の決定、図書館の購入資料と除籍資料の選定、及び研究関連の諸規定の制定及び改定を行った。

科学研究費の助成については、主担研究課題が1件、分担研究課題が2件であった。

FD推進

●要旨

今年度は前後期にわたって、教員の相互研鑽を目的とした「授業見学」期間を本格的に設定し、全授業科目を対象に全教員による授業参観のシステムを始動した。ただし少人数クラスである等の特別な理由がある科目は見学対象から除外した。この制度が成果を上げるために、教職員のこの制度に対する認知度を上げることが課題となる。また、FD総括委員会の活動の一環として、年度内に外部講師による2回の講演会（大学の危機管理のあり方、大学におけるFD活動のあり方）を実施して、同委員会で意見交換を行った。

【5】自己点検・評価体制

大学（大学院及び音楽専攻科を含む）・短大（専攻科を含む）は「自己点検・評価組織規程」に基づき、7年間に2回「自己点検・評価報告書」を作成しているが、単年度ごとにも項目を定めて各教育課程の自己点検・評価を実施している。本年度は、音楽学部音楽学科及び短大音楽科におけるディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーの改定案を精査するとともに、学生満足度調査の集計結果に基づいて学生の要望や提案を分析し、必要な対応策を検討した。

点検評価・「授業評価アンケート」、授業改善計画書

●要旨

授業評価アンケートは前期及び後期に実施し、各教育課程の全開講科目について無記名式で紙媒体での調査を行った。ただし、各教育課程のレッスン科目及び通年制の大学専攻科については後期のみの調査とした。同アンケートは回収後に集計し、統計処理の結果と学生の自由記述の内容を各授業担当教員に通知した。

授業改善計画書は、2015年度後期授業評価アンケートの集計結果をもとに、各教員が、担当クラス・学生の学習状況と授業内容を省察し、授業改善への契機とすること、及び授業評価アンケートに関する学生へのフィードバックを目的に作成した。各教員の執筆した授業改善計画書は、6月に冊子として集成し、授業改善計画書を作成した教員に配付するとともに、図書館・教職員集会室等、学内数ヶ所に配備した。

●成果及び達成度

授業評価アンケートについては、毎年、不断に実施してきた成果として、多くの設問項目は5段階評価で平均4.0～5.0点の高い水準にある。しかし、クラス授業における学生の授業時間外の学習時間については、改善の余地が残されている。この点に関し、自己点検・評価統括委員会で検討した結果、先ず学生の授業時間外の学習時間をよりの確に把握することが必要との観点から、2016年度のアンケートでは宿題・レポート作成・発表準備等、

授業時間外の学習に含めるべき項目を例示して、それらの総合的な学習時間を尋ねる形に設問を改めた。学生が何をもって授業時間外の学習とするかの認識は、今後徐々に統一され、浸透していくと推測される。

授業改善計画書については、2015年度まで専任教員が作成対象者であったが、2016年度から希望する非常勤教員も作成対象者としたところ、予想を超える数の提出があった。授業評価アンケートと授業改善計画書は、授業及び教育の改善に向けた本学の重要な取組みであり、アンケート調査とそのフィードバックによるPDCAサイクルが定着しつつある。

●今後の展望

全国の大学等における授業評価アンケートの分析から、授業評価の点数とクラスの成績水準及び授業外の学習時間の多寡には関連性が認められず、またクラスの受講者数と授業評価の点数は、負の相関関係にあることが知られている。本学にはレッスン授業とクラス授業があるが、今後、クラス授業のアンケートについては教員が人気投票的なものとして受け止めるのではなく、学生の授業時間外の学習を伸展させるとともに、その延長線上にある自発的・自立的学習を促す役割に重点があることを学内に浸透させる必要がある。また、授業改善計画書についても、この観点からの省察を促すようにする。

●その他

従来、教育理念として掲げていた3つのポリシーは、2008年の制定以降、年月が経過する中で、表現が抽象的で教員間における共通理解が形成しにくく、学生や受験生に対して明確でないとの問題が指摘されていた。今回、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」の公布（平成29年4月1日施行）を契機に、自己点検・評価統括委員会を中心となり、大学音楽学部及び短大音楽科について3つのポリシーの全面的改定を行った。

また、2015及び2016年度に実施された学生満足度調査（大学は音楽学部1・4年次、短大は音楽科1・2年次の在学生を対象）の集計結果をもとに、施設・設備については練習室と食堂、カリキュラム・時間割についてはCAP制度、教職科目、選択科目の受講登録及び一般教育科目の内容を中心に検討し、関係委員会等に必要な提言を行った。

【6】 付属図書館

付属図書館では新校舎（100周年記念館・K号館）への移転に向けて、資料の精査及び新校舎での配架計画を行った。前年度から進めていた収蔵資料の精査を引き続き行い、研究委員会で検討を重ねながら除籍資料の選定作業を行った。2016年度中に除籍が完了した図書資料は2,830点で、この結果、2017年3月31日現在の資料数は、図書・楽譜を合わせて約122,000点、視聴覚資料が約55,000点となった。その他、E号館所蔵の洋書約15,000点の内、除籍するものと残すものの選別を行った。今後、除籍対象資料の除籍手続と保存を維持する資料の収蔵場所の確保を行う必要がある。また、マイクロフィッシュとマイクロフィルムを除籍することとしたが、引き続き原簿処理の作業中である。

2017年2月より3月末日まで図書館を閉館とし新校舎への移転作業を行った。移転に際し、閉架書庫内に集密書架と返却ボックスを新規購入した。また、閲覧室にもC号館から運んだ机や椅子に加え新規購入したソファ、スツールを配置した。

図書館利用規程を見直し、2017年4月より楽譜の館内複写及び教職員への映像資料の貸出を禁止することとし、12月に教職員に向けて周知を図った。

付属図書館 資料の整理作業

●要旨

- ・収蔵資料の構成を精査し、専門性と実用性を兼ね備えた施設とする。

- ・新校舎移転に向けた収蔵資料の精査に基づく除籍作業を行う。
- ・収蔵資料の新校舎への配架計画の立案及び配架作業を行う。
- ・来館者にとって使いやすく快適な閲覧室とするため、机や椅子を配置し、さらにAVコーナーを設置する。

●成果及び達成度

- ・新校舎への移転及び配架作業は計画どおり行われた。
- ・移転を契機とした資料構成の見直しにより、閉架書庫内に今後数年分のスペースを確保することができた。
- ・従来、図書・楽譜の閲覧室はC号館、視聴覚室はD号館と分かれていたが、移転後は新校舎2階のフロアに集約し、閲覧室にAVコーナーを設けることにより利用者の利便性が向上した。
- ・閲覧室にはこれまではなかったサイレントスペースやグループ視聴覚室を設け、利用者の利便性を図るとともに、図書館のさらなる利用を促した。
- ・図書館利用規程の改定により、著作権法順守の体制が強化された。

●今後の展望

- ・今後もさまざまな企画を立案し特に在学生の利用促進を図る。
- ・在学生（大学院生を除く）は閉架書庫に立ち入れないので、在学生対象の閉架書庫見学ツアーを計画する。
- ・E号館収蔵の洋書のうち、除籍しない約7,500点の収蔵場所を確保する。
- ・新規購入図書の所蔵場所を確保するため、1階の集密書架の増設計画を立てる。

【7】音楽博物館

100周年記念館への移転準備を行った

- ・縮小・移転に備え、「移転する資料」「移転を断念する資料」の区分計画を立案し、これに基づき各資料の収納状況の確認とともに仕分け作業を推進した。
- ・移転を断念した資料群は、散逸を極力回避することを目的に、学内や学外類縁機関との委譲交渉を進めた。
- ・楽器資料は、展示床面積が必要な露出展示資料、同種複数所蔵の楽器や退蔵楽器を中心に浜松市楽器博物館へ委譲した。
- ・洋楽史資料群は、ミュージックコミュニケーション専攻へ移行、一部は共同研究に資するため、大阪大学へ移行した。
- ・SPレコード群は大阪芸術大学博物館と関西大学博物館へ委譲。
- ・図書・視聴覚資料は選書を経て、継続所蔵・ミュージックコミュニケーション専攻・教職部会・井口研究室・浜松市楽器博物館・廃棄の6つに仕分けし、集約・梱包・移転へと進めた。本学図書館との重複資料は選書のうえ教職部会へ移行。その他の重複資料を中心とした図書・視聴覚資料は浜松市楽器博物館からの希望により委譲。
- ・展示室の空調機が朽損劣化により停止したため、移転準備のための休館を前倒しにした。空調管理の必要な楽器群を事務室エリアに退避させた。
- ・旧展示室において新展示室実寸の展示を行い、移転作業の迅速化に備えた。これにより、新展示室での展示作業を円滑に進めることができた。
- ・校史資料は豊南寮倉庫に移転収納した。
- ・12月より、運送業者による梱包作業を経て、新校舎への移転作業を開始し、2017年3月初旬に移転作業が完了した。
- ・2017年3月24日の卒業式当日、3月26日の100周年記念館完成披露式、同日開催のオープンキャンパスには、4月1日の学内公開に先がけ、特別開館を行った。

音楽博物館の将来計画の策定

●要旨

<入館者対応>

- ・校舎の保安面を鑑み、学外一般者に対し入館料徴収、予約制を設定することになった。
円滑な運営ができるよう楽器資料館ホームページを整備するとともに、周知を推進する。
- ・館が利用しやすい立地になったことから、本学在学生、本学教職員の動向や意見を踏まえて、本学における楽器資料館のあり方を模索していく。

<楽器外資料の整備>

- ・図書・視聴覚資料の管理と有効利用
移転作業時から蔵書点検を手作業で行ってきたが、スタッフ業務の迅速化を目途し、バーコードシール貼付により、蔵書管理の適正化を推進する。
- ・図書・視聴覚資料利用について、図書館との利用方法が統一されていないことから、音楽メディアセンター構想のもと図書館の利用方法に準拠するよう整備を進める。この布石として、バーコードシール貼付を進める。

【8】 附属音楽幼稚園

在園児は5月1日付で306名（3歳児3クラス105名、4歳児3クラス105名、5歳児3クラス96名、前年度比8%増）、3月には98名が卒園した。2歳児親子教室「りんごクラブ」は35組募集のところ前期（5月～9月）は76組、後期（11月～2月）は50組の申込があり、昨年度同様クラスを増設した。音楽教室クレフは受講者が5月1日付で99名、対象園児の49%が受講した。また、子育て支援の一環として1歳児の親子を対象に「きらり」を月1回程度実施しているが、今年度の参加者は全233名、きらり参加者からの入園者割合も増加傾向にある。

少人数制の音楽指導「POCO」

●要旨

保育の中で年中・年長児がグループに分かれて専門講師とともにキーボード・ヴァイオリン・打楽器を順に体験する。

●成果及び達成度

楽器の演奏を通して楽器に興味を持つことで、グループで演奏する楽しさを味わい、達成感を持つことができた。達成感が自信につながり、積極的に物事に取り組む園児を育てることにつながることができた。

●今後の展望

POCOでの経験が子どもたちの自信につながり、さまざまな活動に意欲的に取り組める園児を育てたい。

子育て支援

●要旨

園児の預かり保育、2歳児の親子教室「りんごクラブ」と1歳児・2歳児の親子イベント、保護者のカウンセリングを行う。

●成果及び達成度

園児の預かり保育については 水曜日が課外音楽教室「クレフ」があるため、並行して実施することが難しく、そのため月曜日から土曜日をすべてカバーできていない。しかし利用者は現在のところ順調に安定している。ま

た、土曜日の実施についてはバス運行もあり、好評である。

2歳児の親子教室「りんごクラブ」は前期は定員の約2.2倍、後期は約1.4倍の申込があり、約50%が2017年度に入園した。

保護者のカウンセリングはカウンセラーへの信頼も感じられるようでリピーター利用者も多い。

●公的助成・民間助成

保護者のカウンセリングについては 豊中市の「地域に開かれた幼稚園づくり事業補助金」の子育て支援事業補助としてカウンセラー謝礼費の全額補助を得ている。

●今後の展望

未就園児の親子教室やイベントについては特に新入園児の獲得につながるため、内容の更なる充実と参加者の増加を目指したい。保護者のカウンセリングについては、更に充実させる。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

各種入試広報活動において志願者層との接触を貴重な機会として捉え展開した。

オープンキャンパスにおいては、専攻・コースごとに教育・授業内容の紹介、公開授業、在学生の演奏などを中心に実施し、参加者に本学の教育に対する理解を深めてもらうとともに、個別相談会により高校生の疑問を解決していくことを目指した。

その他、体験レッスンや各専攻・コースのセミナー等の開催、高校訪問活動や進学相談会への参加など、各種入試広報活動を着実に実施した。

また、学生募集に関する支援システムを導入し、入試広報イベント参加者や資料請求者など本学への接触者情報を一元的に管理する環境を整え、入試広報活動をより効率的かつ効果的なものとするためのツールとして活用を始めた。

全専任職員による高校訪問プロジェクト

●要旨

2016年度から開設した「ミュージッククリエーション専攻」と「ミュージックコミュニケーション専攻」について高校への浸透を図るため、昨年度に引き続き全専任職員による高校訪問活動を実施した。

●成果及び達成度

7月に全専任職員による近畿圏の高校約150校を訪問する活動を実施した。

進路指導室を訪問し、新専攻の案内、初年度状況の報告、生徒への案内を依頼することに加え、音楽系クラブ担当教員へ該当する本学の専攻・コース関連資料の生徒への配布依頼を行った。

●今後の展望

次年度も同様に全専任職員による高校訪問活動を実施し、新専攻の案内の他、音楽系クラブを対象とした入試制度についての案内も併せて実施する。

ポピュラーコース・オープンカレッジ

●要旨

高大連携の提携校である帝塚山学院高等学校の生徒を含め、ポピュラー音楽に関心のある高校生を対象に、年間16回のポピュラー音楽講座を実施した。講師は本学短大ポピュラー・コースの教員3名が担当した。提携校に対しては本講座受講を条件とした「高大連携特別入試」を実施している。

●成果及び達成度

2016年度は年間延べ47名、実人数で15名の参加があった。参加高校生にとっては、ポピュラー音楽における大学での学習を先取りして体験する貴重な機会となっており、各講座についても満足度の高い結果を得ることができた。参加者の中からの本学ポピュラーコースへの志願者もあり、入試広報的にも意義のある講座となった。

●今後の展望

これまで本講座は講義的内容を中心に捉えていたが、2017年度は演習の要素を多く取り入れて実施する。

オープンキャンパス

●要旨

2016年度のオープンキャンパスは春(3月)、夏(7月)、秋(10月)の3回開催し、専攻・コースごとに教育・授業内容の案内、公開授業、在学生の演奏などを行うとともに、併せて個別相談や施設案内を実施した。

●成果及び達成度

教員による各専攻・コースの案内により指導方法や在学生の充実度を、また個別相談会や施設案内ツアーを通じて入試制度や教育環境の理解を深めてもらう機会として実施した。来場者数は夏・秋は各約700名、春は約500名。

●今後の展望

各専攻・コースの教育、指導者、制度、在学生、環境等の充実度をアピールする重要な機会として、本イベント実施の意義を一層高め、効率かつ効果的に展開していく。

志願者増加のための各種イベント

●要旨

本学への進学に対する興味喚起や志望度をあげることを目的に、オープンキャンパス、進学相談会、受験講習会、体験レッスン、キャンパスツアー、各専攻・コースのセミナーなどの入試広報イベントを展開した。

●成果及び達成度

教員や入試センタースタッフとの接触機会の創出により、本学教員の指導力や教育環境の充実、入試制度などを理解してもらう機会とすることができた。

来場者数は夏・秋は各約700名、春は約500名。

●今後の展望

いずれの入試広報イベントも最終的に志願につながる可能性があるものであり、イベント参加者を増加させるための案内や告知を強化していく。

【2】対社会事業

<キャリア関連>

大学3年次生、短大1年次生を対象に合同進路・就職ガイダンスを3回実施(参加者延べ177名)、在学生在が卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移すための契機として取り組んだ。また早期の意識付けとして、大学1年次生、短大1年次生に対して通常授業(教養基礎セミナー)の1/2コマ(45分)を使い、キャリア支援センターの紹介と活用奨励の説明及び教職支援室、日本語ライティング支援室を含めた場所の確認を全クラス行った。

これらに加えて、学内で卒業後の進路に関わる各種採用説明会を実施した。主に音楽教室(ヤマハ、カワイ、三木楽器等)の講師採用説明会や公立学校教員採用試験(大阪市、堺市、豊能地区、神戸市、京都府)説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊(海上)採用説明会、警察音楽隊(大阪府)、消防音楽隊(神戸市)や東京ディズニーリゾートオーディション等の採用説明会を実施した。卒業生にも協力を

要請し、多様な進路を在學生に提示することができた。

こうした説明会等の他にも講座やセミナーを多数開催している。教員採用試験対策として一般教養、教職教養については2014年度から継続してWEB講座により実施し、また2015年度からは公務員試験対策（音楽隊含む）もWEB講座により継続して実施した。教員採用試験対策については、勉強会を2日間にわたり大学で実施し、教職部会教員による弾き歌い指導、面接指導等を座学に加えて行った。さらに、音楽教室講師を目指す学生にはヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座、音楽教室How-toセミナー等を開催した。

一般的な就職活動に応用できる講座にも取り組んでいる。履歴書・自己分析講座を開催し、書類作成上で必要なノウハウ、記入上の諸注意事項、一般的なビジネスマナーを伝え、また就職活動で必須の面接試験対策の講座も開催した。また、TOEIC、TOEFL等の資格試験で役立つリスニングや単語力の上達を目指す英会話講座、就活等での第一印象に重要な就活メイクの講座も開催するとともに、活躍する先輩等をもっと身近に感じ、気軽にディスカッションできる新たな場としてMIRAIカフェを6回開催した。

最後に、キャリア支援センターにおける学生支援の2本柱の一つである予約制定期学生面談を大学3年次生・短大1年次生を対象に2016年11月から2017年1月にかけて（約186名）、大学4年次生、短大2年次生を対象に5月から7月にかけて（約45名）実施した。もう一つの柱であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て夏期・春期の年2回実施し、併せて延べ60名が体験した。事前指導を実習前に行い、終了後には体験学生による振り返り会と報告会を行った。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、大学コンソーシアム大阪、兵庫県経営者協会と提携を結び、希望学生の受付、申請を行った。

●2016年度進路調査結果（2017年3月卒業生、2016年9月卒業生含む）

		大学	短大	大学院	大専	短専
就職	音楽教室(企業)	23	4	4	6	3
	音楽教室(自営)	4	0	0	0	1
	演奏活動	2	4	3	3	0
	企業	39	18	2	1	4
	教員	31	3	5	1	0
	公務員	7	0	0	1	0
	その他	21	13	1	2	1
	小計	127	42	15	14	9
進学		40	24	1	1	0
その他	アルバイトしながら演奏活動	11	14	1	0	1
	その他(未提出含む)	16	18	2	0	1
	小計	27	32	3	0	2

<エクステンション関連>

キャリア支援センターが実施するエクステンション関連事業は、指導者研修と教員免許状更新講習の2件で、受講者はそれぞれ354名、911名であった。（人数は延べ数）

<連携関連>

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施している。当センターの連携関係事業は、大きく分けて社学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

■社学連携事業

・地域社会との連携

- ①豊中市との共催で「とよなか音楽月間」「ミュージカル公演&ワークショップ」「市民ロビーゆうゆうコンサート」「第2回豊中音楽コンクール」「豊中市立文化芸術センター開設記念事業 オープニング・ガラ・コンサート」等の実施、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市との共催で「豊中こども音楽フェスティバル」を実施した。また、豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「市立豊中病院ランチタイムコンサート」を開催した。また、今回で8回目となる、大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画「あなたがみるもの、私にみえるもの～子どもの世界、おとなの世界～」の公演を大阪大学・大阪音楽大学・豊中市の三者共催事業として実施した。
- ②豊中市野田校区社会福祉委員会の依頼により、本学の学生サロンばうぜを会場として「いきいきサロン」の催事名称で地域のお年寄りに憩いの場を提供するとともに、本学の在学学生によるコンサートを開催した。
- ③寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業の「寝屋川市アルカスピアノコンクール」への審査員紹介や、ミュージカル「寝屋のはちかづき」公演の制作協力等を行った。
- ④公益財団法人川西市文化・スポーツ振興財団との連携により、川西市吹奏楽連盟主催の吹奏楽楽器別講習会を本学学生を講師として実施した。
- ⑤特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪との連携により、本学を会場として「中学生サマーセミナー リコーダー講習会」を実施した。

■公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市、NPO法人大阪府高齢者大学校等、自治体・公共団体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

- ①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」
- ②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」
- ③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介
- ④大阪府高齢者大学校：講座への講師派遣やコンサートの実施

■依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業でもある。また近年は、在学学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。

教員免許状更新講習の運営

●要旨

対社会貢献の一端及び教員養成課程を有し、教員を輩出している大学の責務として、教員免許状更新講習を実施した。音楽系講習は全国的に少なく、特に関西圏において本学は中心的役割を果たしており、社会の要請に応えるものとなっている。

受講時間は、必修領域6時間（1科目）、選択必修領域6時間（2科目の内1科目選択）、選択科目18時間（6科目の内3科目選択）で合計30時間の受講が必要となる。修了確認期限前2年間で履修するもので、当該年度に期限を迎える教員や卒業生の教員を優先する方針を取っており、7月から8月にかけて教員の方々が受講しやすい期間に実施している。

●成果及び達成度

現役の教員の方で修了確認期限に該当される方、今後、各地の教育委員会に講師登録等をし、教員を目指す方を対象に2016年度次の講習を実施した。受講者数は以下のとおりである。

- ・[必修]「教育の最新事情」 187名(定員120名)
- ・[選択必修]「学校を巡る状況変化と教育改革」 76名(60名)
「国際理解及び異文化理解教育」 96名(60名)
- ・[選択]「日本伝統音楽」 60名(45名)
「雅楽基礎講座」 29名(20名)
「打楽器指導法」① 50名(30名)
「打楽器指導法」② 47名(30名)
「合唱指導法」① 105名(65名)
「合唱指導法」② 107名(65名)
「指揮法の基礎と実践」 29名(20名)
「リコーダー指導法」 125名(50名)

全ての講習で定員を超え当初掲げた「各講座共、申込者数の倍率1.0以上」は達成でき、受講者は教室や楽器教等を踏まえ可能な限り受け入れたが、受け入れをお断りせざるを得ない講習も複数あった。また、講習時期が夏のため、体感温度の個人差から室内温度調整に苦労したが、受講内容におけるアンケート結果は満足度の高いものであった。

●今後の展望

2017年度から教員免許状更新講習事務室を開設し、受講者への対応等のサービスアップを目指す。また、当該支援室運営経費も含めた収支バランスを考慮して受講料を増額して実施し、受講申込状況等を検証して今後の講習実施の方向性を検討する。

運営上のハード面(インフラ面)も重要な要素で、大教室数の減少の中で可能な実施形態を教職部会や教員免許状更新講習検討委員会で検討する。原則として今後も継続する方向にあるが、受講者数の増減の程度によっては理事会の判断が必要になる。

指導者研修の運営

●要旨

水川記念館公開講座としてスタートし、現在は7講座を開講しており、2016年度で37年目を迎える。伝統ある講座ではあるが、本年度をもって終了した。

<わかりやすく、短期間で身につく研修>をモットーに保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校での音楽担当教員や音楽教室の講師・指導者、合唱団・合奏団などの指導者、また指導者を目指す方を対象に、最近の指導方法、工夫された指導方法などを教授することを目的に主に7月中旬から8月下旬にかけて(一部9月下旬から12月上旬)実施した。

●成果及び達成度

音楽の指導に携わっている方、またこれから携わる予定の方を対象に、2016年度は次の7講座を実施した。受講者数は以下のとおりである。

- ・合唱(応用編)/合唱指揮:13名、合唱:49名
- ・創作指導/15名
- ・合唱(基礎編)/89名
- ・ピアノ(基礎編)/38名

- ・ピアノ（応用編）/34名 *この他、コマ受講は延べ51名
- ・打楽器/35名
- ・幼児・子ども音楽/81名

全ての講習で定員充足率1.0以上の目標は、「創作指導」「合唱（応用編）合唱指揮」で定員割れであったため達成できなかったが、総受講者数では近年で一番多く昨年度と比しても60名増であった。また、最後の研修となるため、研修後のアンケートでも好意見が多く、また終了を惜しむ内容が多く記されていた。

●今後の展望

2016年度の実施を持って指導者研修は終了となる。

Daion100周年記念倶楽部

●要旨

本学の卒業生で、吹奏楽の分野で活躍されている中学・高校の教諭との交流を深めるため、Daion100周年記念倶楽部をばうぜ2階で開催した。本学の取り組みについて説明するとともに、本学に対するご意見、ご要望を聴取した。

●成果及び達成度

本学が取り組んでいる音楽を通じた社会との連携や貢献・発信の新たな可能性を探るとともに、本学の存在意義を社会に発信するための情報収集の場とすることができた。

●今後の展望

今度もDaion100周年記念倶楽部を継続し、本学の卒業生と強固なネットワークを形成しながら、社会との連携を重視した大学運営に結びつけるようにする。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに事業を展開している。豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を年間76件（こども園7件、小学校48件、中学校21件）実施し、延べ983名の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

昨年度に引き続き、吹奏楽・合唱の指導や授業支援演奏会など同等の内容で依頼を受け、多くの学生が経験を重ねることができ、豊中市内の小中学生にも好評であった。また、年度末に事業報告会を豊中市と協同で実施し、現場の先生方の声を直接聞くこともできた。

●今後の展望

サウンドスクール事業を開始してから2016年度で10年を迎えたが、まだ豊中市内の小中学校すべてに浸透していない側面があるので、今後はサウンドスクールの説明会を実施するなどして、実施実績のない学校に対しても広く浸透させたい。

とよなか音楽月間

●要旨

豊中市と連携して10月から12月上旬までの期間で様々な形態の演奏会等を開催した。また、本学主催の演奏会も音楽月間内催事に組み入れ、豊中市民を無料で招待した。

●成果及び達成度

豊中市の政策である「音楽あふれる街 とよなか」が市民はもちろんのこと、市外の方々にも定着しつつある。

●今後の展望

今後も豊中市との連携演奏会を充実させ、豊中市と本学だからこそできる演奏会を音楽月間中に開催したい。

第2回豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015年度から豊中市の主催により、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は共催団体として運営協力し、学内施設で5月28日(土)29日(日)に予選、6月12日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を開催した。部門は高校と大学・一般があり、それぞれにピアノ、声楽、管弦楽器の各部門を設け、申込定員は各30名、審査員は本学教員の他に学外の著名な演奏家の方々にも依頼し構成した。

上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者(1名)は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

他のコンクールに比べ参加料も低料金であるため、多数の応募をいただいた。

本選では、豊中市民約90名に市民審査員を依頼した。また、多数の一般来場者があり、華やかな審査会場の中で充実したコンクールとなった。

●今後の展望

同コンクールは、2017年度も同様に共催として、6月17日(土)18日(日)に予選、7月2日(日)に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方々にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとして発展できるものとする。また、2017年度より高校の部 管弦楽器部門を、管楽器部門と弦楽器部門に分けたことにより、より多くの応募が見込まれる。

ミュージカル公演(市民協働)

●要旨

大学主催行事として年度末にミレニアムホールで開催していた短期大学部ミュージカル・コースの試演会を、2014年度第4回公演より豊中市との共催で開催している。2016年度で3回目の共催事業となり、2017年3月9日(木)に、2回の本公演を開催した。会場は2016年度よりオペラハウスとなった。

また、「市民開放」の点で、本公演の付随事業として「ミュージカル・ワークショップ」を実施した。受講者は主に豊中市民を対象に定員30名とし、講師はミュージカル・コースの羽鳥三実広教授を中心とした教員で、公演3ヶ月前より8回の講座を学内施設で開催した。

●成果及び達成度

入場者数は、1公演目467名、2公演目563名(2公演計1,030名)。昨年度は現代社会において直面する様々な課題をテーマにリアルな人間模様を描いた物語であったが、今年度は里親に育てられた少女が自身の出生を知ることによって幸せについて考え、高らかに人間賛歌を歌い上げる作品を上演した。観客には大変好評であった。

チケットは全て「販売」するという羽鳥教授の指導方針により、売上全体の70%以上のチケットを学生自ら販売、自分たちの舞台のチケットを観客に購入してもらうことの大切さも学ぶことのできた公演であった。

今年度初めて市民の方を対象にシニア出演者オーディションを実施し、9名の応募者の中から3名が選ばれ、学

生とともに舞台上に立った。

ワークショップは、ミュージカルの歴史や豆知識などの話や実技も取り入れた内容で、受講生のアンケートには大変充実したものであったとの感想が多く見られた。

●今後の展望

2017年度も同様に共催として、2018年3月10日(土)11日(日)にオペラハウスで3公演の開催が決定している。現在、チケットの販売箇所が豊中市役所のみとなっており、市民がチケットを購入できる場所が限定されているが、本学もしくは豊中市内のプレイガイドで販売できないか検討し、さらに多くの方に見ていただく努力をしたい。

Daion 吹奏楽フェスティバル ～吹奏楽の饗宴～

●要旨

管打専攻等の卒業生が指導している京阪神地区の有名中学校・高等学校の吹奏楽部を招待し、オペラハウスを会場として吹奏楽演奏会を開催した。

●成果及び達成度

招待した出演校の指導者(卒業生)だけでなく、観客として来場する卒業生も対象としたホームカミング的な催事となり、卒業生の本学への帰属意識を高めることができた。

●今後の展望

京阪神地区の中学校・高等学校を対象として演奏会の広報活動を行い、本学入学への契機となるよう工夫したい。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇の発生地足らん」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を実に3度も受賞したのを始め、モービル音楽賞(現、東燃ゼネラル音楽賞)の本賞や三菱UFJ信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立100周年目に当たる2015年度に、「創立100周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言っても良いオペラ「ファルスタッフ」を、例年より予算をかけて上演したことや、過年度から創立100周年以降のオペラハウスにおける主催オペラ公演の在り方を見直すという計画が理事会より発表されていたこともあり、2016年度は主催オペラ公演を休止し、2017年度以降の公演計画について検討する年とした。その結果2017年度からは、井原広樹、岩田達宗、栗国淳の3名の客員教授を年替わりで演出に起用し、3年にわたるシリーズとして主催オペラ公演を行うことを、理事会の承認を得て決定した。2017年度には、11月3日、5日の二日にわたって井原広樹演出、牧村邦彦指揮で、モーツァルトの《偽の女庭師》を上演する予定である。

一方オペラハウスは、教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。例えば、大学主催演奏会として10公演を開催し、5096名が入場した。また学生の自主公演として開催されている、授業の延長にあるコンサートを11公演開催し、3989名が入場した。さらにクラシック系の専攻で学ぶ学生は、卒業実技試験の際、この舞台上で必ず演奏の機会を持つことになっており、2016年度は27回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され、1955名が入場した。

その他にも、付属幼稚園の公演が2回、本学同窓会の公演が1回行われ、あわせて1372名の入場者を得た。またオープンキャンパス、講座やセミナー、入学式、卒業式、共催事業など多岐にわたる事業が実施され、15件で6241名の入場者があった。その結果、年間催事総数は67件、総入場者数は19337名、総稼働日数は188日にも及んでいる。

また付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に7件11回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。平成28年度には、文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」を担い、山形、福島、栃木、群馬、埼玉の5県で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を各17回開催した。巡回公演の実施は、本学の名を広く東北、関東にも知らしめる成果を収めている。

オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

外部団体から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が出張演奏を実施している。

2016年度は次のとおり7公演11回の出張演奏を行った。

9月3日 いずみホールオペラ2016「ドン・ジョヴァンニ」

9月10日、11日 堺シティオペラ「ナクソス島のアリアドネ」

9月17日、19日 江原啓之プロデュース「ジャンニ・スキッキ」

10月1日、2日 みつなかオペラ「マノン・レスコー」

11月26日、27日 関西歌劇団「皇帝ティートの慈悲」

12月23日 ときめきの第九 第10回演奏会

2017年3月25日 びわ湖ホール声楽アンサンブル第63回定期公演「不思議の国のアリス」

●成果及び達成度

依頼演奏は大学の広報活動の一端を担っている。また、2016年度から運営体制を一新し、循環型の教育オーケストラとして楽団員の研修を行いながらプロの管弦楽団として活動している。

とりわけオペラ演奏の質の高さにおいて依頼団体から絶大な信頼を得ており、オペラハウス管弦楽団は今や関西のオペラ界に欠かせない存在となっている。11月に出演した関西歌劇団「皇帝ティートの慈悲」では、同公演の平成28年度大阪文化祭賞奨励賞受賞に貢献した。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼件数が減少傾向にあるが、オペラ公演等において、演奏の実力を示すことで、より多くの依頼演奏を受けられるよう努めたい。

文化庁巡回公演事業

●要旨

この事業は、小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、子供たちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。学校法人大阪音楽大学では、自らが制作団体となり、公演団体をザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団として2010年度から実施し、2016年度は7年目となる。2016年度は、山形、福島、栃木、群馬、埼玉の5県において、小学校13校、中学校4校の、合計17校で公演を実施した。

●成果及び達成度

本公演の実施にあたり、事前に公演に関するワークショップを行い、オーケストラの説明や楽器紹介・ミニコンサートなどを実施した。また、児童・生徒との共演の演目の実演指導を行い、本公演に向けて子供たちの関心を高めた。

本公演では、オーケストラの演奏を鑑賞するだけでなく、床から伝わる音の振動など、体育館ならではの臨

場感あふれる体験をすることができた。また、プロのオペラ歌手の歌声にも触れることができ、指揮者体験コーナーや共演コーナーではオーケストラと子供たちとのコラボレーションも実現した。本学とは縁が薄い地方での巡回公演であったが、結果的に本学の名を遠く東北、関東にも知らしめる成果も得ることができた。

●今後の展望

2017年度は、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の4県において、8公演の実施が採択されており、7月からワークショップの実施を予定している。いずれも近畿から離れた地での公演であるが、本学の名を日本全国に広める一助となるよう努力する。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

外部団体等から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団が出張演奏を実施しているが、2016年度は、次の1公演のみの依頼となった。

9月3日 いずみホールオペラ 2016「ドン・ジョヴァンニ」

●成果及び達成度

いずみホールオペラは、オペラハウス管弦楽団とともに依頼を受け、公演の成功に貢献した。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼公演数が減少傾向にあるが、どのような種類の依頼公演であっても、オペラハウス専属の合唱団としての演奏の実力を示すことで、より多くの依頼演奏を受けることができるよう努めたい。

【4】 付属音楽院

2016年度教養講座受講者数は、2015年度と比較すると同水準に留まった。受講者管理システム導入に伴い、受講者数は一時50名減だったものの年度を通して平均数を獲得できたためこのような結果になった。マンツーマンレッスンに関しては週平均7～8件の問い合わせがあり、今後もかなりの需要が見込まれる。これはホームページを中心とした積極的な広報が功を奏したと考えられる。2016年度音楽院ホームページ等の閲覧数は大学の閲覧数に匹敵するほどの数となった。

次年度以降新規講座の開講と既存講座の統廃合を進めるとともに、引き続きインターネットを活用した広報体制によりマンツーマンレッスンを中心に新たな受講生の受け入れに努める。

進学コースについては、入学祝い金や、音楽院賞制度を設けた結果、在籍者数が60%増加した。2017年度は高校の各学年の生徒10名ずつ、計30名を目標として広報に一層力をいれる。

食事をしながら気軽に聴けるコンサートをコンセプトに、学生サロン「ばうぜ」2階で無料のランチタイムコンサートを17回開催した。来場者が教養講座に興味を持ってもらえるように、出演者については音楽院の講師等を中心に、様々な演奏者を選定している。このコンサートは土曜日に来校する会員へのサービスが主目的であるが、音楽院を知らなかった新規の来場者の割合も確実に増加しており、1回のコンサートにつき平均120名の来場者があった。

「音楽院コンサート」は448名の入場者があった。コンサートの内容は好評であり、そのニーズも高く、教養講座の宣伝にもつながっている。子供向けに実施した「ファミリーコンサート」根強い需要があるため、こども音楽講座の広報としての役割も担わせ、今後も定期的実施する。

新システム導入から1年が経過し、新しい申し込み方法は徐々に会員に浸透している。事務作業が軽減できたこ

とにより、より丁寧な会員への対応に努めているが、徹底できていない部分もある。次年度以降は事務作業のマニュアル作成とそれに基づいた対応を徹底し、会員の満足度の向上へつなげる第一歩としたい。

次年度はサテライト教室「さくら夙川校」（仮称）の運営がスタートする。現状の音楽院では十分に対応できていなかった西宮から以西の受講希望者を受け入れるとともに、大学のPR、ひいては将来の音楽家の育成に力をいれる。

こども音楽講座の会員数拡充・定着率向上のためのキャンペーン実施

●要旨

次の催事を開催した。

- ・「こども音楽講座無料体験」（4月23日）
- ・「0歳からのファミリーコンサート」（8月26日）
- ・「0歳からのファミリーコンサート」（10月23日）
- ・「クリスマス会」（12月17日）
- ・中学生以下の受講者の発表会「ミュージックカーニバル」（3月11、12、18日）

●成果及び達成度

・「0歳からのファミリーコンサート」（8月26日 ミレニアムホール 10月23日 ザ・カレッジ・オペラハウス）は大変好評で未就学児童が入場できるコンサートの需要は高く、アンケート集計においても継続的な開催を望む声が強かった。有料での開催にもかかわらず、8月26日は満席、10月23日は約500名と多くの来場者があった。会員数の拡大につながると期待されるため今後も続けて実施する。

「クリスマス会」については来場者数には問題はないが、受講につながる事例がないため、2017年度は実施を見送る。

・ミュージックカーニバル（発表会）は、会員サービスの向上を目指すものであるが、舞台演奏の体験を通じて幅広い年齢層の会員の受講継続につながったと推測される。

●今後の展望

これまでの実績を踏まえて、「0歳からのファミリーコンサート」ならびに「ミュージックカーニバル」を今後も実施する予定であるが、新鮮味のあるコンサートづくりを推進するとともに、イベントの内容などを再検討し、会員や来場者の満足度の向上に努めたい。

進学コース受講生獲得キャンペーン実施及び実力診断の広報拡充

●要旨

次の催事を開催した。

- ・「小学生のための実力診断」（7月3日）
- ・「音楽系志望者のための実力診断」（7月10日）
- ・「社会人のための実力診断（声楽）」7月31日
- ・「音楽系志望者のためのピアノの実力診断」1月15日
- ・「実力診断優秀者コンサート」3月25日

●成果及び達成度

〔音楽系志望者のための実力診断、音楽系志望者のためのピアノの実力診断〕

ミレニアムホールを使用して各1回実施した。参加者にとって大学の教員による実技審査を受ける機会には有意義な経験になったと思われる。中学生以上を対象としているため、参加者は中学生・高校生で占められていたが、

大学入学を考える社会人も見受けられた。実施後に送付しているアドバイスシートに記載された講評が参加者の満足度を高めている。

〔小学生のための実力診断〕

本格的なホールで、かつコンクールとは違い自由曲のみで参加できる形で小学生のための実力診断を実施した。多感で吸収力の強い時期にある児童に向けた本学教員からの具体的なアドバイスは、参加者・保護者にとって好印象を与えたものと考えられる。また優秀者によるコンサートも質の高いものとなった。

〔社会人のための実力診断〕

声楽限定の実力診断を実施した。音楽院会員だけにとどまらず、会員以外の参加者も多く集まった。ミレニアムホールで歌い、大学教員からアドバイスを受けられる機会は貴重で、社会人入試にもつながる可能性も考えられる。

〔進学コースリニューアル〕

2016年度は、進学コース受講生の特典として、また一般参加者を対象にピアニストのシプリアン・カツァリスを講師に迎えマスタークラスを実施した。受講者は2日間で12名であった。このマスタークラスのため、チラシ、SNS、WEB広告により、進学コースだけでなく大学のPRも含めた広報を展開した。

●今後の展望

これまでの実績を踏まえて、引き続き実力診断及び進学コース関連講座等のリニューアルを進める。情報交換や新規の取り組みについて、入試事務部門とこれまで以上に連携を深める。今後も「進学コース」の受講者及び受講相談者の一人ひとりに対して、入試制度の説明を含めたきめ細かい対応を図る。

2017年度より、中学生のマンツーマンレッスンを20%割引価格で実施することとした。現在、音楽院には2つの提携教室があるが、ピアノ指導者を対象とする講座シリーズの「ピアノ×未来」と連携させ、試行的な教室の拡大を検討中である。また、2017年10月から実施予定のピアノグレートテスト「DAIONグレード（仮称）」を実施する計画である。マスタークラスについては成果が上がっているため、継続して実施する計画である。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2016年度は、これまでの伝統と歴史を基に新しい時代へ飛躍を目指す本学の姿勢を示す機会として捉え、4月に新たに開講した2つの専攻や11月に竣工した100周年記念館など、創立100周年を経て次の時代に向けた取組みを発信した。

新専攻については、広報誌やHP・SNS等で第一期生の学修状況や活動を発信し、専攻の魅力や活気を伝えた。

新校舎「100周年記念館」については、大学案内冊子やHP特設サイトで完成イメージ図を使い、音楽文化の発信地として更なる教育環境の充実を図る状況を伝えた。

入試広報関連においては、イベントのちらしやHPのコンテンツ等を一括して制作する形に改め、志願者層へのアピール力強化に努めた。

また、集客力のある商業施設での広報的イベントにおける演奏、マスメディアへの取材対応、広報誌、HP、SNSをはじめとした各種広報ツールによる情報発信など、これまで実践してきたブランド力を強化する活動も一層推進する形で取り組んだ。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動

●要旨

本学・専攻の認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、建学の精神、教育理念を社会に対し発信し、本学の存在価値を高めブランド力強化を図った。

●成果及び達成度

テレビ・新聞等マスメディアにおいて、何度か本学が特集される機会に恵まれた。

全国版経済新聞での新専攻に関する記事の掲載や、テレビでの朝・夕の情報番組及び深夜バラエティ番組等での本学の特集的な放送により、本学の教育的取り組みや学生生活の充実、教員の魅力を社会に発信することができた。

また、大手百貨店や主要ターミナル駅ビル、スポーツ競技場など大規模施設での広報的演奏イベントも継続的な取り組みとして実施した。イベント単体の集客に加え、主催者によるポスター、ちらし、ホームページ等での事前告知掲載、当日の大型ビジョンでのライブ投影、イベント観覧者による事後のインターネット上での好評なコメントや動画掲載による拡散などもあり、広報的価値の高い取り組みとなった。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用し、本学の取り組み、学生生活の充実、教員の魅力を社会に発信し、本学のブランド力強化を図り、入試広報へ好影響をもたらしていくものとする。

創立100周年記念誌編集

●要旨

本学創立100周年を記念して制作したWEB年表を完結させるとともに、そのダイジェスト版小冊子の後編を発行した。

●成果及び達成度

本学の100年史をWEB上に年表形式で展開した「関西音楽史のなかの大阪音楽大学」が10月に100年分の掲載が完成した。

その後半50年分のダイジェスト版小冊子「パイオニアとして歩み続けた半世紀」を同月に発行し、前年に発行した前編「創業者永井幸次と歩んだ半世紀」と合わせ、卒業生や新校舎「100周年記念館」の竣工式、完成披露式の来賓等に配付した。

●今後の展望

本学の新生生に対し年史小冊子を配布し、創立者の思い、本学の成り立ち、教育に対する取り組みなどを理解してもらう機会としたい。

【2】施設・設備

施設設備充実のため、主に①新校舎への機能移転②その他キャンパスの整備③オペラハウス関連工事④付属音楽幼稚園関連工事の4件を行った。

①昨年度に引き続き、野田校地新校舎建設を進行させ、10月31日に完成させた。11月からは移転作業に取り掛かり、2017年3月には、備品の移設と補充等を完了させ、地上8階建て「図書館（視聴覚室を含む）」「楽器資料館」「録音スタジオ」「オペラスタジオ」「ミュージカル演習室」「ポピュラー演習室」「ダンス演習室」「電子オルガン演習室」等を備えた新校舎K号館（100周年記念館）として、2017年4月の使用開始に備えた。

②教室不足を解消するため、D号館1階の旧視聴覚室とD号館401教室、F号館511教室を改修し、それぞれミュージックコミュニケーション専攻の専用教室、授業教室2室（B401教室とB404教室に分割）、及び打楽器（器楽合奏）専用教室、キーボード演習室に充当した。また、B号館401教室は2室に分割し、B401教室とB404教室とした。

また、イメージアップのため、A号館1階のカーペット及びA号館東面と南面窓のロールカーテン取替工事、H

号館東入口階段タイルの全面張り替え工事、J号館トイレ改修工事を行った。

③オペラハウス内のタワー昇降用ボーダーケーブル（照明）交換を行い、照明機器類の落下防止及び漏電の危険性を防止した。また、地下ポンプ室の冷温水装置が不良となり、温水ポンプ装置のオーバーホール作業を行った。なお、オペラハウス搬入口シャッターにも不具合があり、開閉装置の取替えを行った。

④幼稚園の安全確保のため、防犯カメラシステムと緊急通報システムの機器を取付けた。また、教室の床面及び壁の補修、西側外壁の保守工事を行った。

K118DTM教室機器更新

●要旨

経年劣化したDTM機器・ソフトを新校舎移設と同時に更新し、最新環境での授業運営を目指した。また同時に、MacとWindowsコンピュータの2系統で運営していた授業と自習室をMacで統一した。

●成果及び達成度

Macコンピュータに最新のソフトを導入するとともに、既存のMIDIシステムを見直し、シンプルな配線にまとめ、機能性を向上させた。

●今後の展望

授業のニーズに合わせ、周辺機器やソフトの見直し、バージョンアップを行う。

特定建築物調査

●要旨

建築基準法12条第1項の規定に基づき、A・B・C・D・E・F・G・H・K・L・O・P号館を「特定建築物」として調査を行った。

●成果及び達成度

検査結果については、特に問題はなく、大阪建築防災センターより「建築物定期調査報告済証」を得た。

オペラハウス内タワー昇降用ボーダーケーブル（照明）交換工事

●要旨

2012年度の改修工事では対象となっておらず経年劣化によるケーブルの硬化で収納ボックスに収まりが悪く、照明のタワーが揺れ危険であるため交換した。

●成果及び達成度

ケーブルの硬化による昇降時のタワーの揺れが改善され、揺れや落下及び漏電の危険性が回避された。

オペラハウス施設の維持管理

●要旨

オペラハウスが開館して25年以上が経過する中、ロビーの照明設備も劣化が進み、電球の在庫も残り少なくなった。既にメーカーが既存設備の生産を中止しているため、オペラハウスロビーの照明用設備の一斉入れ替えを実施した。

●成果及び達成度

照明設備自体を交換することにより今後も継続的に電球の確保が可能となった。

●今後の展望

本件に限らず、設備備品の経年劣化については、年度ごとに計画を立てながら維持管理に努めていく。

ストレスチェック

●要旨

衛生委員会を中心にストレスチェックの実施方法等における学内ルールの検討を行い、学内規程を整備するとともに「職場における心の健康づくり計画及びストレスチェック実施計画」を策定した。また、「ストレスチェック実施案内・基本方針」を作成し、実施計画とともに専任教職員に配付することで教職員への周知を行った。

初回の実施に際しては、定期健康診断と同時期に行うことで教職員がなるべく混乱せず、また負担とならないように配慮し、対象者128名のうち87名が受検（受検率68%）した。

●成果及び達成度

衛生委員会において継続的に実施計画の見直しを行いつつ、ストレスチェックの重要性を教職員に浸透させることで受検率をできる限り100%に近づける。また、集団分析等のデータを職場環境の改善に活かす。

コンピュータ構築関連

●要旨

ミュージックコミュニケーション専攻の教室改修工事に伴い無線LAN工事を実施した。また、マイナンバー対応のため支払管理システムを導入し、他システムとの連携や機能改善のためポータルシステム・GAKUENシステムのプログラムを更新した。

●成果及び達成度

無線LAN工事は、H号館からD101教室に無線機器を移設し、必要な配線工事を行った。同時に第1キャンパスの無線LAN設備を増強し、学生サロン「ぼうぜ」内での利用対象を教職員にも広げた。また、寮生からの要望により豊南寮の食堂にも設置した。

支払管理システムは老朽化もあり、新システムを導入した。これに伴い、報酬支払や支払調書等のマイナンバー管理を支障なく行うことができた。

ポータル・GAKUENシステムは、C群履修登録時トラブルの未然防止のため履歴表示機能を追加した。また帳票等の出力内容の適正化や学生募集管理システムとの連携機能を追加することにより操作性を向上させ、事務作業を軽減した。

●今後の展望

ポータルシステム・GAKUEN等システムバージョンアップを行い、最新機種・OS・ソフトウェアへ対応する。機能強化と事務効率化を図り、経費削減につなげる。

マイナンバー管理

●要旨

1月より運用が開始されたマイナンバー（個人番号）の管理について、法律に基づいた管理、運用の体制を整えた。

●成果及び達成度

- ・特定個人情報保護規程を制定した。
- ・教職員の個人番号については給与処理業務を委託している会社のシステムを利用し管理することにより源泉徴収票作成業務が円滑に行えた。
- ・外部講師、演奏員、業務委託者等の個人番号については、謝金支払管理システムを導入し個人番号管理だけでなく、報酬等の支払から支払調書作成までを行えるようにした。

- ・収集した個人番号については、個人から提出のあった個人番号通知書については金庫にて保管、システムに登録されたデータについては、システムで制限することにより特定の担当者のみ登録、修正、閲覧を行う体制としている。

●今後の展望

法律や政府の運用方針にのっとり、特定個人情報が漏えいすることがないように管理、運用を行う。

職員能力開発研修の実施

●要旨

職員能力の開発を目的に日本能率協会（JMA）等が主催する研修会に多くの職員が参加した。

●成果及び達成度

日本能率協会が主催するJMA大学SDフォーラムのセミナーに専任・専任嘱託事務職員46名が参加した。
資格取得支援制度に関しては、2016年度は申し出がなかった。

●今後の展望

SD研修については情報を収集し新たな展開を検討していきたい。また、職員能力向上を推進するため、資格取得支援制度についても今後申請しやすい仕組みづくりを構築する。

新校舎開校準備

●要旨

新校舎については、前年度に引き続き、外壁工事や内装工事、電気設備工事、空調工事等前年度の残り70%の建築・設備工事と、さらに、豊中市との共同事業として、憩いの広場の整備を行い、2016年10月31日に施工者から竣工・引渡を受けた。

11月から2017年3月までは、2017年4月1日の使用開始に向けて、旧K号館及びC号館より新校舎に備品等の移設を行い、不足物や更新が必要な物品の補充を行った。

●成果及び達成度

10月31日に竣工・引渡しを受け、11月7日に100周年記念館竣工式を開催した。その後、新校舎への引越し作業を完了させ、2017年3月26日に完成披露式を行った。

●公的助成・民間助成

文部科学省の私立学校施設整備補助金として、前年度7千4百40万円、今年度1億1千4百10万円に加え、新関西国際空港株式会社の大阪国際空港教育施設等騒音防止対策補助金として、前年度4千4百万円、今年度7千4百20万円を得た。

●今後の展望

2017年4月から、授業教室、練習室、体育館やメディアセンター（図書館、楽器資料館）等を備えた新たなK号館（100周年記念館）として使用を開始する。今後は、メディアセンターの地域連携事業に果たす役割を模索する。

【3】法人の運営

2015年6月に着工し、建設中であった「100周年記念館」が10月末に完成した。11月7日に竣工式、2017年3月26日に完成披露式を執り行った。この「100周年記念館」は2015年度の本法人創立100周年を記念して旧K号館とC号館の機能を集約すべく計画され、音楽メディアセンターとして図書館と楽器資料館を内包する一方、ジャズ、ポピュラーのほかオペラ、ミュージカル、ダンスパフォーマンスの専用教室は魅力的な教育研究環境となっている。これにより、旧K号館があった名神口校地は校舎とともに2017年4月末に売却することになる。

また、2014年9月より開始した「創立100周年記念新校舎建設募金」は、758名の個人、76社の法人、21団体から総額134,049,510円に上った。寄付者の芳名録を作成・配付するとともに、「100周年記念館」3階に寄付者銘板を設置し、顕彰を行った。

学長任用・選挙制度の見直しを趣旨に学長任用・選挙規程改定検討委員会を設置し、本学学長の選出方法を現行の「推薦投票→所信表明→本選挙→再選挙」から「推薦投票→所信表明→本選挙候補者選考委員会にて候補者選出→公開面談→本選挙」に変更することとし、これに係る関連規程を改定した。なお、2017年度中に予定する現学長の任期満了に伴う学長選挙は新しい制度のもとで実施することになる。

一方、学生数減少による厳しい財務状況を見据え、本法人の収支バランスを均衡させるため、新入生を安定的に確保するとともに、教職員の処遇を含む支出削減を並行して実施する「今後の経営基本方針」に従い、「アクションプラン」諸策の実行と「財務改革」として各種事業の見直しと廃止、教職員処遇の見直しを実施した。

本学を取り巻く社会情勢と近年の短大入学者数の状況を踏まえ、2018年度に短大の入学定員を150名から100名（収容定員300名から200名）に変更することを決定し、これに係る大阪音楽大学短期大学部学則の改定を文部科学省に届け出ることとした。

今年度は理事会を4回、評議員会を3回開催した。理事会において決定した学校法人の業務並びに理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を22回開催し、延べ175件の議題を審議した。各役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を6回開催した。

今年度の教職員数は552名、内専任教員は67名（大学・短大53名、付属音楽幼稚園教諭14名）、専任職員は60名。この内年度中の退職者は63名（専任教員3名、専任教諭3名、専任職員3名、非常勤教員32名、その他22名）であった。

【4】財政

本学では、毎年作成している人員計画や施設計画及び経費削減策等の理事会方針を反映した「長期財政試算」を指標に、事業計画や予算を策定し、安定した収支バランスの確保に努めている。本年度もまた、昨年度に引き続き安定した収支バランスの確保のため、財政基盤の強化に取り組んだ。主な方策としては、①アクションプラン実行による学生数の確保、②安定した資産運用による収入の確保、③経常費補助金、科学研究費補助金、演奏会に対する助成金、施設設備に対する補助金等外部資金の獲得、④人事処遇の見直し等人件費の削減、⑤演奏会の見直しや徹底した予算管理による経費の削減を行った。

寄付金事業の検証

●要旨

創立100周年記念プロジェクトとして建設する新校舎建設資金の一部、とりわけ学内の環境整備、緑化事業、学生使用施設の内装充実に資する資金として活用することを目的とした募金活動は、2016年3月末を終了時期としていたが、その後も寄附の申出が寄せられたため、最終的に2016年12月末まで継続した。

ご厚志を賜った寄付者に感謝の意を表すため、寄付者芳名録と銘板の作成を行った。

●成果及び達成度

最終的に758名の個人、76社の法人、21団体から当初目標額の1億円を超える総額134,049,510円の寄附が寄せられた。

寄付者のうち多数を占める卒業生に対しては、3月1日発行の同窓会《幸楽会》の会報・幸楽会だよりに芳名録を同封し送付した。また、銘板を作成し、建設された新校舎・100周年記念館の3階へ設置し、寄付者・法人の一部を招待して開催した100周年記念館完成披露式（2017年3月26日）で公開した。

●今後の展望

卒業生以外の寄付者に対して、4月に芳名録を送付予定である。また、引き続き2018年3月まで継続中の教育振興資金募金の広報に取り組むとともに、今後の募金活動の活性化を目指す。

アクションプラン

●要旨

当面の厳しい財政状況を見据え、本法人の収支バランスを適正化させる。

●成果及び達成度

2017年度以降の大学及び短大の入学者数の目標（大学210名、短大110名）達成のため、各部会・事務部門が作成した「アクションプラン」の具体策を実行中である。2017年度入学者数は大学203名で目標に僅かに満たなかったものの、短大では目標数を超える111名の入学者を確保した。

なお、6月と2017年2月の2回、各部会・事務部門でのアクションプランの進捗状況の確認・効果測定を理事長面談により行っている。

●今後の展望

引き続き「アクションプラン」と「財務改革」を並行して実行し、本法人の財政基盤を強化する。

III 財務の概要

別紙をご参照ください。

▼2016年度 法人の動き

日付	内容	場所
<A. 教育・研究事業>		
2016年4月1日	大学・短大入学式	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月1日	キャリア支援(進路・就職)に関する新入生保護者対象ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月5日	音楽教室講師採用説明会(ヤマハ、カワイ、三木楽器) [他、6/28、11/5、11/29、1/11]	B207教室 他
4月5日	音楽幼稚園 第49回入園式	音楽幼稚園
4月12日	バスティアン・ポーメ氏 ユーフォニアム特別講義	O201教室
4月15日	教員採用説明会(堺市、大阪市、神戸市、豊能地区)[他、4/18、4/25、5/9、1/13]	A305教室 他
4月15日	名刺作成講座[他、4/19、5/20、24、6/15、7/12、9/30、10/21、11/16、12/20]	キャリア支援センター
4月22日	教職STUDY! [他、4/25、5/13、16、6/27、10/19、24、12/14、2/20、27]	H202教室 他
4月25日	教授会①	会議室
4月26日	MIRAIカフェ[他、5/18、6/16、7/15、10/14、11/1]	キャリア支援センター
5月10日	英会話講座[他5/17、5/24、5/31、6/7、6/14、6/21、6/28、7/5、7/12]	B207教室
5月13日	【企業就職希望者対象】MIRAIセミナー[他、5/17、11/4、2/9]	B207教室 他
5月23日	教授会②	会議室
5月25日	東京ディズニーリゾートオーディション説明会	B101教室
6月3日	TOEICテスト対策セミナー	B101教室
6月6日	中村恵理客員准教授 声楽特別講義	C401教室
6月8日	海上自衛隊音楽隊採用説明会	O103教室
6月10日	SPI・Webテスト体験セミナー[他、11/11]	F212教室
6月15日	ヤマハ大人の音楽レッスン インストラクターズ・セミナー[他、11/2]	K203教室
6月20日	教授会③	会議室
6月22日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会[他、11/16]	O201教室
6月22日	岸智也氏 ゲーム・オーディオ制作特別講義	A301教室
6月24日	大阪府警察音楽隊採用説明会	O201教室
6月28日	漆原朝子特任教授 ヴァイオリン特別講義 [他7/20(O201)、12/1、12/21(O201)]	O105教室
6月29日	神戸市消防音楽隊採用説明会	O103教室
7月4日	教員採用試験対策 ～2次試験編～	D202教室
7月8日	パコ・ロドリゲス氏 ホルン特別講義	O201教室
7月11日	バジル・クリッツァー氏 トロンボーン特別講義	O101教室
7月18日	教授会④	会議室
7月19日	And Vision留学説明会[他、2/20]	B101教室
7月20日	陸上自衛隊中部方面音楽隊採用説明会(教務担当)	O101教室 他
7月20日	岡崎雪氏 作曲のためのボイストレーニング特別講義	A301教室
7月23日	音楽幼稚園 夏まつり	音楽幼稚園

日付	内容	場所
7月26日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義 [他1/23(F112)]	P107教室
8月10日	企業取材プロジェクト[他、9/17、10/22、12/8]	府立大I-siteなんば
9月12日	カワイピアノグレード6級認定特別講習	F109教室
9月26日	教授会⑤	会議室
9月29日	ヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座 [他 10/6、10/13、10/20、10/27、11/10、11/17、11/24、12/1]	B205教室
9月30日	大学3年生・短大1年生対象 卒業後の進路・就職ガイダンス[他、10/5、7]	O201教室
9月30日	菊原光治客員教授 邦楽特別講義	F106教室
10月9日	音楽幼稚園 第50回運動会	音楽幼稚園
10月14日	音楽教室how-toセミナー	F215教室
10月24日	教授会⑥	会議室
10月24日	リー・カムシン氏 ピアノ特別講義 [他10/25]	F112教室
10月28日	ヴォルフガング・ヴィプフラー氏 ホルン特別講義	O201教室
10月28日	ハンノ・ドネヴェーク氏 ファゴット特別講義	O202教室
10月31日	松原友教員 声楽特別講義	A303教室
11月5日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象説明会(全学生保護者対象)	ミレニアムホール
11月5日	キャリア支援(進路・就職)に関する個別相談	会議室A~D・事務局開始室
11月5日	ハバネラ・サクソフォンカルテット特別講義	O101教室
11月8日	松田康子氏 ピアノ特別講義 [他11/9、11/10]	F510教室、F112教室
11月10日	ハイコ・トリーベナー氏 テューバ特別講義	O201教室
11月15日	三橋貴風氏 邦楽特別講義	F110教室
11月15日	トーマス・インデアミュレ氏 オーボエ特別講義	O201教室
11月21日	パスカル・モラゲス客員教授 クラリネット特別講義	ミレニアムホール
11月28日	教授会⑦	会議室
12月1日	就活スタートアップ講座	F113教室
12月6日	パトリック・ジグマノフスキ氏 ピアノ特別講義	F434
12月7日	大阪音楽大学 第59回 定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月8日	アルベルト・ゼツダ氏 声楽特別講義	F214教室
12月9日	教員採用試験対策・公務員採用試験対策WEB講座ガイダンス	B102教室
12月19日	教授会⑧	会議室
12月20日	ファブリス・モレッティ氏 サクソフォン特別講義	O110教室
12月24日	履歴書&自己分析講座	F215教室
2017年1月28日	大阪音楽大学短期大学部ポピュラー・コース・コンサート	サンケイホール プリーゼ
1月30日	教授会⑨	会議室
2月13日	面接対策講座[他 2/14、2/15]	F215教室

日付	内容	場所
2月15日	就活メイク講座(女子学生限定)	F110教室
2月16日	AICE「企業研究講座」[他、2/17・2/25]	B101教室 他
2月18日	第28回 大阪音楽大学学生オペラ「フィガロの結婚」[他 2/19]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月20日	ディートリヒ・ヘンシェル氏 声楽特別講義	F434教室
2月22日	就活・履歴書用証明写真撮影会	ぱうぜ特別室
2月25日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	オペラハウス
2月27日	教授会⑩	会議室
3月4日	大阪音楽大学 第48回 吹奏楽演奏会	フェスティバルホール
3月11日	大阪音楽大学短期大学部 2016年度卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月11日	大阪音楽大学 2016年度卒業演奏会 [他 3/13、14]	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月15日	教員採用試験対策勉強会[他、3/22・3/25]	A305教室
3月18日	音楽幼稚園 第50回卒園式	音楽幼稚園
3月21日	教授会⑪	会議室
3月24日	大学・短大卒業式	ザ・カレッジ・オペラハウス

日付	内容	場所
<B. 社会連携活動事業>		
2016年4月16日	音楽院ばうぜランチタイムコンサート[他 5/14、28、6/25、7/16、30、8/20、9/3、24、10/1、22、11/5、26、12/10、1/7、2/4、3/4]	ばうぜ2階
4月23日	音楽院こども音楽講座無料体験	F434教室他
5月10日	オペラ物知り講座 [他5/26,6/2、6/9、6/16]	ミレニアムホール
5月12日	一般社会人のためのオペラ講座 [他 7/19,11/1,1/17]	ザ・カレッジ・オペラハウス他
5月14日	音楽院特別講座 [他5/28、8/20、9/3、17、24、10/1、11/26、2/4、3/4]	A305教室他
5月28日	豊中音楽コンクール 予選 [他5/29 本選 6/12]	ザ・カレッジ・オペラハウス 他
7月3日	小学生のための実力診断	ミレニアムホール
7月10日	音楽系志望者のための実力診断	ミレニアムホール
7月15日	指導者研修[他、7/16、17、30、31、8/3、4、5、6、18、19、20、9/24、10/1、22、29、11/19、26、12/3]	F434教室、ミレニアムホール 他
7月29日	教員免許状更新講習[他、8/4、5、9、16、17、18、22、23]	ミレニアムホール・F215教室 他
7月31日	社会人のための実力診断(声楽)	ミレニアムホール
8月27日	ファミリーコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
9月11日	音楽院コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
9月18日	音楽院進学コース 前期 実技試験 兼 音楽院特別推薦認定審査	ミレニアムホール
10月1日	第6回 豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月21日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」[10/28、11/4、11、18]	高槻市立生涯学習センター
10月23日	ファミリーコンサート	ミレニアムホール
11月5日	第2回 豊中音楽コンクール受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
12月17日	音楽院クリスマス会	ミレニアムホール
2017年1月15日	音楽系志望者のためのピアノの実力診断	ミレニアムホール
2月18日	音楽院器楽発表会[他2/19]	ミレニアムホール
3月5日	音楽院声楽発表会[他3/19]	ミレニアムホール
3月11日	音楽院ミュージックカーニバル[他3/12、18]	ミレニアムホール
3月20日	音楽院ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
3月25日	音楽院進学コース後期実技試験、音楽院優秀者コンサート	ミレニアムホール

日付	内 容	会場
<C. 法人組織運営事業>		
2016年4月1日	広報誌「MUSE」237号発行 [他、7/1、10/1、1/10、238-240号発行]	
5月26日	第1回 理事会 〔決議事項〕2015年度事業報告 2015年度決算報告 短期事業計画案(2016～19年度) 〔報告事項〕2016年度入学試験結果 創立100周年記念寄付金事業結果 株式会社テストの清算 法人運営規模等の推移(2007～2016年度)	会議室
5月30日	第1回 評議員会 〔諮問事項〕役員人事 2015年度事業報告 2015年度決算報告 短期事業計画案(2016～19年度) 〔報告事項〕2016年度入学試験結果 創立100周年寄付金事業結果 株式会社テストの清算 法人運営規模等の推移(2007～16年度)	会議室
7月8日	第2回 理事会(書面表決) 〔決議事項〕役員人事	会議室
10月15日	創立100周年記念誌小冊子後半版「パイオニアとして歩み続けた半世紀」発行	
11月7日	100周年記念館 竣工式	100周年記念館
2月2日	第2回 評議員会 〔諮問事項〕役員人事 2016年度第1回補正予算案 学長選出方法の変更 大阪音楽大学付属音楽幼稚園における入園金他の変更 役員報酬規程の改定 〔決議事項〕寄附行為の改定	会議室
2月3日	第3回 理事会 〔決議事項〕役員人事 評議員人事 2016年度第1回補正予算案 学長選出方法の変更とこれに係る規程の改定 寄附行為の改定 組織運営規程の改定 2017年度大阪音楽大学学則の改定 2017年度大阪音楽大学短期大学部学則の改定 2017年度大阪音楽大学付属音楽幼稚園園則の改定 就業規則の改定 役員報酬規程の改定 賞罰規程の改定	会議室
3月22日	第3回 評議員会 〔諮問事項〕2017年度事業計画案 2017年度予算案 大阪音楽大学短期大学部入学定員の変更 〔報告事項〕副理事長の選任 評議員の選任 2017年度入学試験結果	会議室
3月22日	第4回 理事会 〔決議事項〕2017年度事業計画案 2017年度予算案 2018年度大阪音楽大学短期大学部学則の改定 2017年度大阪音楽大学付属音楽幼稚園園則の追加改定 2017年度入学試験結果	会議室
3月26日	100周年記念館 完成披露式	